

2023 年度 立命館慶祥中学校 入試講評 国語

2023 年 1 月 9 日実施

一 言語事項

漢字読み書き 5 問、熟語の組み立て 5 問、慣用句 5 問、四字熟語 5 問をそれぞれ出題しました。漢字の読み書きはよくできており、大問一全体の得点率も昨年度と比べ 6.5% 上がりました。しかし、慣用句の問題には誤答が目立ちました。基本的な漢字の書き取り練習に加え、言葉の知識を幅広く身につけましょう。

二 説明文の読解 出典：伊勢武史『2050 年の地球を予測する—科学でわかる環境の未来』

地球温暖化の予測を踏まえ、温暖化による影響から身を守るために、先進国が発展途上国を支援することを提案する文章です。筆者の主張自体は比較的捉えやすいものでしたが、資料の難易度が高めで、意図を理解し正しく読み取る力が必要とされました。

問二がまさに、本文および図 1・2 からの読み取り問題でしたが、2 つの正答を選ぶうちの片方のみしか合っていない解答が多くありました。本文内容と資料を結びつける思考力をきたえる必要があります。問四は、「そんな」という指示語の内容を明らかにすることはできていましたが、その後の説明まで完答できている解答は少数でした。また、空欄にあてはまるように解答することが求められているのに、文末がそれに合致しないものが見られました。答え方の指示をよく確認することが大切です。問五も、完答に至らず部分点の解答が多く見られました。傍線部から離れた箇所に解答のヒントがある場合に正答率が下がる傾向にあるため、記述問題の際には文章全体から複数の要素を構成し、記述をまとめるようにしましょう。

三 物語文の読解 出典：佐藤まどか『スネークダンス』

スケッチが趣味の主人公と、主人公の才能に大いに期待する家族との温度差が浮き彫りになる場面を描いた文章です。圧倒的な技術の落書き犯や芸術の世界に対する、主人公の複雑な心情を読み取る力が試され、得点率は昨年度と比べ 7.8% 下がりました。

問一の指定された語句を使用しながら記述する問題では、「頭角」という指定語の意味を理解していないと思われる解答が多く、指定語を記述に用いたとしても「頭角を現す」の用法が不適切なため得点に結びつきませんでした。大問一と同様に、慣用句などの言葉の知識を日頃から得ようとする努力が必要です。問四は、「アートとかじゃなくて」「圭人にとってスケッチとはどのようなものか」に答える問題でしたが、アートとの違いを示せていないもの、「スケッチすること」と問いと同じ言葉で解答してしまっているものも多く見られました。何を問われているのか、設問文を丁寧に読んで理解することが大切です。

四 複数資料を用いた総合的な文章 出典：山本謙治『エシカルフード』ほか

指定の条件に当てはめて二文で解答する問題でした。昨年度はこの大問が未記入だったり途中解答だったりする答案が多かったのですが、今年度はおおむねしっかり記述できており、昨年度と比べ得点率が 14.3% 上がりました。一文目で使用する【資料Ⅱ】は、2012 年と 2020 年を比較してフェアトレードの認知率が増加していることを読み取れていましたが、特定の世代にのみ着目した解答もありました。二文目で使用する【資料Ⅰ】も内容読解はできていたのですが、意見文の直後が「なぜなら」で始まることに注意して、因果関係が通るように構成することが不十分な解答が多く見られました。今回の場合は、「フェアトレードと宣伝されている商品が本当にそうであるとは限らない」から、どうする必要があるのか、を記述する問題でしたが、「生産者たちが生活を向上させられる」「国際的な支え合いになる」など、筆者の主張の他の部分を書いてしまっている解答が目立ちました。自分の答えを作成したら、前後の文章と合わせて通読し、文意が通るかしっかり確認しましょう。

2023年度 立命館慶祥中学校 入試講評 算数

2023年1月9日実施

<講評>

I. 計算・文章題の小問集合

昨年同様、計算問題を3題と文章題を3題出題しました。基本的な問題が多かったので正答率は上がりました。[1]～[3]の計算問題はよくできていました。[4]～[6]の文章題では、[6]の集合の問題が良くできていました。[4]の整数の問題では正しく文章を読み取りができずに間違える受験生が多かったです。

II. 図形の小問集合

図形に関する出題でした。解きやすい問題が多かったので正答率が上がりました。[1]の角度を求める問題、[3](1)の展開図の問題はよくできていました。[3]の(2)の体積を求める問題は、問題文で与えられた数値から逆算していけば難易度は高くないのですが、その段階まで到達していた生徒は多くありませんでした。図形問題の全体としては、日々の受験問題の取り組みの差が出やすい出題だったと思われます。

III. 分野融合問題

様々な分野の融合問題で、会話文の読解力や論理的な思考力も求められる出題でした。[1]の概数の問題では桁数に関する誤答が目立ちました。[2]の割合・円グラフの問題は、良くできていましたが、問題文の指示通りに出来ていない誤答がありました。[3][4]では問題文を丁寧に読み取る読解力と条件に合った計算式を立てる論理的な思考力が求められました。やや難易度の高い問題で、正答率は低かったです。

IV. 速さの問題

文章とグラフで与えられた情報を照らし合わせながら、整理し考える問題でした。[2]では、問題文の指示通りに出来ていない誤答も目立ちました。[4]では、求め方も答える記述問題で、記述形式に慣れていない解答も多くありました。[5]では、ヒントとなるグラフを使いこなせていないと得点は難しいのですが、想定以上の正答率でした。出題形式に慣れていなかった受験生には厳しかった一方で、速さの問題になれている受験生には取り組みやすかったようでした。

<学習のアドバイス>

中学の数学を学んでいく上で大切となるのは「考える力」です。その「考える力」の根幹となるのは、確かで素早い「計算力」、習った内容を繰り返し使える「再現力」、文章やグラフから情報を読み取る「読解力」、問題を解く道筋を立てられる「論理力」と「判断力」、最後まであきらめずに取り組める「執着力」です。受験ではこのような力を見る出題がされています。

分野別には、例年出題されている計算・文章の集合・図形の基本問題はもちろん、会話文や資料・グラフから情報を読み取る問題などの分野融合型の問題にも、取り組んでください。1つ1つの問題にじっくり時間をかけ、しっかり理解してから次の問題に進むことで応用問題を解く力が身についてきます。また、問題文の指示通りに出来ていない解答や計算は出来ていても桁数を間違えてしまう解答などがもったいない減点となるので、減らす工夫が必要です。

また、日常生活にある数字に対しても興味関心を持ち、考えてほしいと思います。数学は自然、科学、医学、経済、情報など多くの分野で基礎となる学問です。数学を学ぶことで君たちの将来が大きく変わります。楽しんで取り組んで下さい

2023年1月9日実施

<講評>

I. 物理・化学・生物・地学分野の基本問題

実験器具の扱い方や基本的な知識・理解を確認する問題であり、正答率が最も高くなりました。その中でもこの基本原理に関する問題である〔3〕と月の基本知識の理解度が高かったです。〔4〕(2)の正答率が低いことから、月の見かけの運動に関する理解が低く、空間把握能力が弱いことがわかります。また、〔5〕(2)のようなデータから最も適切な選択肢を選び取る問題の正答率が低くなりました。与えられたデータを論理立てて処理する能力を伸ばしていくことで、身近な現象と学んだ科学の知識を結びつけることができ、より興味・関心を持って学習に取り組むことができるでしょう。

II. 生物・物理分野の総合問題

メダカの産卵条件や面積変化にともなう圧力変化をテーマとした会話文から、実験の基本知識と実験結果を読み取り、考察する問題でした。〔1〕のメダカの雌雄を判別する問題は、正答率が高かったですが、〔2〕の緑色をしているプランクトンを選択する問題の正答率が大問中で最も低く、学んだ知識が表面的なものにとどまっているため、身近な生物に興味・関心を持ち、科学的探究心を深めると良いでしょう。圧力に関する問題では、圧力に影響を与える実験条件は何かを表の実験結果から整理し、その法則を導き出す力が求められました。普段から、学んだ知識や実験結果で得られた情報から法則性を見出す練習をしていきましょう。

III. 化学分野の総合問題

化学変化にともなう気体や液体の発生に関する問題でした。〔2〕の正答率が高く、実験結果を正しく表にプロットし、グラフを作成する能力があることがわかりました。一方で、実験2のような過不足の発生する化学変化の計算問題に苦手意識を持っている生徒が多くいるようです。与えられた実験結果から正しい反応比を導き出し、思考実験での計算に応用する力が求められています。また、一見複雑そうに見える計算であっても聞かれていることはシンプルなので、実験の結果から何が明らかになるのかを順序だてて説明できるよう、日頃から意識して学習を進めると良いでしょう。

IV. 地学分野の総合問題

台風を題材にして異常気象に関する知識と読解力、思考力を試す問題でした。〔1〕では雨量計の開口面積が変わっても溜まる雨水の深さは変わらないという実際の事が理解できていませんでした。〔2〕〔3〕は知識を問う問題ですがもう少し出来て欲しかった問題です。〔4〕の計算は、問題文に書かれていることを参考にすれば解けたと思いますが、時間が足りなかったのかほとんど出来ていませんでした。記述問題では、水蒸気が台風のエネルギー源であるという問題文の記述が活かされていない答案が見られました。

<学習のアドバイス>

例年通り、知識を問う問題を中心に正答率が高く、しっかりと勉強してきている受験生は高得点を取っていました。一方で、思考力を問う問題では、問題文に書かれている情報をしっかりと読み取り、その場で組み立て直す練習の不足が見られました。今後の勉強の指針としては、難しい問題へのチャレンジを通して、データを生かす読解力、正確な計算力、記述では的確に要点を述べる国語力の伸長を意識して勉強すると良いでしょう。

2023年度 立命館慶祥中学校 入試講評 社会

2023年1月9日（月）実施

I 日本地図を題材にした地理総合問題

毎年大問Ⅰでは、日本の地理について出題しています。今回出題した4つの大問のうち、正答率が一番高かったです。ですがその一方で、基本的な用語を解答できたかで差がついた問題がありました。[1]「千島海流」「日本海流」[5]「輪作」などはその一例です。

記述[4]の日本とメキシコと雨温図を比較する問題は驚いた受験生が多かったかもしれませんが、輸入する時期に注目すれば推理することは可能だったはずで、このように地理分野は、地図・写真・グラフ・表を多く使用して問題をつくることが多いです。さまざまな資料を見慣れておくことが大切だといえます。

II 写真による歴史総合問題

毎年大問Ⅱでは歴史分野を中心に、出題しています。昨年度、大問Ⅱはもっとも得点率の高い大問だったのですが、昨年度よりも正答率が低かったです。問題で最初に並べられた写真を実際に机の上にならべたとして、その時代におこった出来事がどれくらい頭に浮かびますか？またそれをノートにどれくらい整理することができますか？今回受験生のあいだで差がついたのはそういった部分です。昨年度のコメントにも書きましたが、慶祥中学校の入試問題では「その時代はどのような時代だったのか」の理解が不可欠です。

細かく分析すると、広い時代のなかの細かい時期整理を問うもの（[4]の(2)「江戸時代」、[6]の(2)「近代」）、問題集でよく出題される用語が頭にうかびやすいもの（[5]の(1)は「文明開化」ではなく「欧化政策」、[7]の(人物名)は「伊能忠敬」ではなく「間宮林蔵」がそれぞれ正答）が難しかったようです。それ以外の問題でめだつた差は見られないことから、知識を時代ごとに整理する力をより細かいレベルで学習することが大切といえます。また、基礎的な漢字の間違いはもったいないです。近年はデジタル教材で学ぶことが多いですが、今後も「書く力」をみがくことを忘れないでください。

III 地域の再生を題材とした地歴公融合問題

大問Ⅲも大問Ⅱと同じく、昨年より正答率が低かったです。原因は、公民分野の問題における正答率が悪かったためであると考えられます。[2]の(1)社会権、[6]グリーンツーリズムなどがその例です。歴史分野での正答率は悪くなかったため、公民分野の対策で差がついたと考えられます。日頃から、時事問題の論点について整理し、みずからまとめる学習などが求められます。

今年度は教科書や授業ではあまり扱わないような珍しい時事用語に関連した出題をいくつかしました。[3]忘れられる権利などは、最近社会科の図説に載るようになったような用語です。ただし、問題自体は、公民の人権の学習をしていれば解答は可能でした。このように、時事問題をただ聞き流すだけでなく、その論点について、授業での学びとむすびつける習慣を持ちましょう。

IV 資料による論述問題

メタバースの利用について、長所と課題を考える問題でした。

提示された資料を、メリット／課題を論じる上でどう活用するか、迷ってしまった受験生が多かったようです。すべての資料に目を通していない答案や、問題文をそのまま抜き出した答案なども多く、資料の分析力・判断力、自分の言葉でまとめる「表現力」で差がついたといえるでしょう。提示された問題文や資料から、出題内容といかに関連するものなのかを読解する力を身につけることが重要である。

大問Ⅳについては、資料を“適切に”読みとれたかによって、受験生のあいだで点数差がついた問題だったといえます。昨年度も指摘したアドバイスになりますが、提示された問題文や資料から、何を問われているかを読解する力を身につけられるよう、意識して学習をしていきましょう。